

# さわらび

2018. 11. 21 No. 24 文責：大塚

## 「地域とともにある学校」

本校はまさに、これが基本の学校です。1947年に設立以来、地域の方々に愛され育まれてきました。また、2003年には隣の竹屋敷中学校と統合し、さらに広い校区の中で地域との繋がりを大事に実践を重ねてまいりました。竹屋敷地区のお年寄りとの交流行事は、現在も継続しています。四国4県連携の環境教育協力校（2006年）を受ける数年前から、「野草」「川漁」「野菜」をテーマとして生徒の活動を推進した時期もありました。どのテーマについても、地域の方々に講師として迎えて「実践のプロ」に子どもも教職員も学ぶことができました。現在は、四万十市内の小・中学校では2校だけのコミュニティスクールとして学校運営協議会を設置して、本校の課題や今後の取組に関わる情報をオープンにしながら地域の声を学校運営にかかしているところです。

少子高齢化の波は本校の生徒数にも大きく影響し、一昨年度からの激減は現在も続いており、今年度は生徒数7名の複式校です。校内の清掃1つとってみても、少人数ということは1人あたりの担当箇所が多いものです。毎日できない場所もありますが、生徒たちはしっかり取り組んで自分たちの学校の環境を整えています。また、保護者もこの状況にさまざまな面での協力をしてくださり、体育館のトイレ掃除は夜の一般開放のときに気にかけてくださったり、運動会においても人数不足を保護者・一般の参加等で補ったりの動きがあります。これらのことから、生徒からも『人数が少なくても、みんなが手伝ってくれることを実感した』『この人数でもがんばればやれることが分かった』等の前向きな声も出始めました。

本校の学校教育目標は、「心豊かでたくましく、主体的に活動できる生徒の育成」です。これに向けて、私たち教職員も、四万十市教育研究推進指定事業の「キャリア教育」「土曜授業」を中心に据えて日々の実践に取り組んでいます。

少しずつではありますが、発信してまいりますのでよろしくお願いいたします。

2018年11月

四万十市立藤岡中学校 校長 大塚明人

9月から一年半ぶりのホームページの更新にとりかかり、少し軌道にのってきましたので、やっと「校長あいさつ」を上記のように更新しました。本校のことを一言で表現しようとしたとき、真っ先に最初の1行が浮かんできました。

4月から、生徒たちは『藤岡のお宝発見！』と題しての総合学習に取り組んでいます。その中では、藤岡の歴史や文化について新たなことを知ったり、仕事を通して地域の人との出会い直しがあったりしてきました。現在、そのことを再度振り返りながら、12月9日（日）に行われる「ふるさと発見！ 四万十の子ども研究発表会」（会場：JA会館）に向けて準備を進めているところです。



また、校長室の机上には4月から「藤岡村誌 ふるさと再見」を置いて、ときどき時間のあるときにページをめくっています。なか

なか読み進める時間がないのですが、この本のP 66には、「八幡宮裏山遺跡」という項があります。

藤岡中学校の裏山の金毘羅山の中腹から、縄文時代後期（約3500年前）の石棒が出土したという記述です。もともと1947年（昭和22年）頃、畑の開墾中に発見されていたもので、その52年後に別の遺跡のものとはほぼ同じと分かったことから判明したのだそうです。

すごいことだと思います。この藤岡中のある場所のすぐ裏山で、縄文時代後期に、当時の人たちが集まって石器を使って祭祀（神や祖先をおまつりする儀式）をしていたこと。そういった歴史を知ることでも、いろいろな面から地域についての出会い直しがあるのだと思います。

今後とも、「地域とともにある学校」としての、本校の取組へのご協力をお願いいたします。

ところで、ある日の国語の授業では……。1.2年生合同の学習をしていました。話し合い活動をする単元です。

○司会者は、自分の役割を考えて話し合いを進行すること。

○参加者は、話し合いの流れをとらえての発言をすること。

などを目指して取り組んでいました。国語科では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統文化と言葉について」などをバランスよく学ぶことが大切なので、教科書にもいろいろな教材が載っています。子どもたちがこういった授業をしていること、学んでいることを、ぜひ、



知っていただきたいと思って掲載しました。日常的にいつでも学校にお越しいただき、子どもたちの学びの様子をご覧ください。

## 学校における道徳教育 Q&A

「特別の教科 道徳」では、どんなことを勉強するの？

道徳科では、他教科と同様に教科書が配布され、教科書を中心に読み物や映像など多様な教材を活用して授業を進めていきます。授業で活用するそれぞれの教材には、「相手のことを思いやり、親切にしよう」「約束や社会のきまりを守ろう」などのねらいがあります。子どもたちは、教材に登場する人物の気持ちなどを考え、お互いに話し合うことを通して、自分はどのように生きればよいのかを学んでいきます。

たとえば、ある子どもは、「悪いことだと分かっているけど、友だちに仲間はずれにされるのがこわいから一緒にやってしまう」と言い、またある子どもは、「いくら仲のよい友だちに誘われても悪いことは絶対にしない」と言います。道徳科では、こうした様々な考えをもとに議論しながら自分なりの考えをもち、これからの生き方に生かしていくのです。

「高知の道徳」より